

女性が理想とするライフコースの傾向について

ケースメソッドⅢ 2017/11/15

A15CB028 ・ A15CB037 ・ A15CB068

A15CB069 ・ A15CB104

目的

近年、高度経済成長を通じて女性の社会進出が急速に進んでいる。今や女性が男性と同じように就職することが当たり前のようにになっている。本調査はそうした現状の背景を踏まえながら女子大学生が考える多様なライフコースのパターンに着目し、女性が望むライフコースの傾向を探ることを目的とした。

方法

日時：平成 29 年 10 月 11 日 13 時 40 分から 14 時 10 分、平成 29 年 10 月 18 日 13 時 50 分から 14 時 07 分

場所：椋山女学園大学 2-111 教室

研究協力者：女子大学生 8 人(平均年齢 21 歳)

調査方法：それぞれの研究協力者に向け、面接開始前にあらかじめ用意した選択肢の中から、現在自分が理想とするライフコースを選択するように依頼した。面接開始後、なぜそのコースを選択したかについて質問し、その後は会話の流れに応じて質問内容を換える半構造化面接を行った。ライフコースの選択肢は以下の通りである。

1. 両立…結婚し子どもをもつが、仕事も一生続ける。
2. 再就職…結婚し子どもをもつが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ。
3. 専業主婦…結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない。
4. DINKS<共働き・子どもなし>…結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける。
5. 非婚就業…結婚せず、仕事を一生続ける。
6. その他

分析：面接時に面接内容をメモ書きし、後日逐語録を作成した。その後、KJ 法を用いて発言をライフコースごとに分類した。

結果

調査の結果、選択肢のうち 8 人の研究協力者が選択したのは「両立」、「再就職」、「専業主婦」の 3 つであった。このうち、両立を選択したものが 2 人、再就職を選択したものが 4 人、専業主婦を選択したものが 2 人と、再就職を選択したものが最も多い結果となった。

表1. 両立を選択した者の回答例

カテゴリー	回答例
子ども	2人姉妹で育ったため子どもを生みたい(N)
仕事	産休をして再び仕事復帰(N) 旦那の収入が少なかったり、失業した時を考え仕事を続ける(N) 生活費を稼ぐため仕事は辞めない(K) せっかく就職できたため仕事先は変えず子どもができて辞めない(K) 旦那と対等でいたいいため自身の地位を確立するためにも働きたい(K)
想い	子どもの習い事や趣味は旦那に任せたいため高収入であってほしい(K) 旦那への負担はかけたくない(N) 旦那と対等な立場でいたい(K) 自立していたい(K)
趣味	自分の趣味の物にお金を費やしたい(K)
お金	貯金をしてお金を貯める(N) 自分がある程度お金を稼いでから結婚したい(N) 自分の趣味に使うお金は自分で稼ぐ(K)

上記の表から、両立を選んだ者は、子どもが欲しいという願望がある一方、産休を選択してでも、仕事を続けることを望んでいることがわかった。想いに関しては、子どもにかかる費用と自身の趣味の実現、また生活費を得るためにも旦那は高収入な人であってほしいと考えるが、旦那への負担はかけたくないため自分も十分なお金を稼げるように仕事を続けていたいと答えた。お金に関しては、貯金をして将来のために使いたいと考える他、自分の趣味に使うお金は自身で稼ぎたい将来像が見えた。

表2. 再就職を選択した者の回答例

カテゴリー	回答例
子ども	子どもが幼稚園に入るまでは子育て中心の生活をしたい(A,B) 子どものための時間をある程度空けておきたい(B) 子どもを産んだらそばにいてあげたい(B) 小さい時は母親が必要(B) 子どもは母親にとって一部だから、放っておくわけにはいかない(B) 二人で働いたら子どもは十分に育てられる(B) 子どもがある程度成長したら仕事を再開することを伝えてわかってもらう(B)
仕事	どのような仕事をしたいという欲があるわけではなく、安心のために働きたい(B) 産休や育休が充実しているところなら、もともと働いていたところで働きたい(B) 制度のようなものがあるなら正社員として働きたいし、なければパートでもいい(B) 働くのが好きだからというより、働かないといけないという気持ち強い(B) 子育てだけではなく、仕事もやりたいと思っている(E) 専業主婦が理想であるが働く(B)
想い	相手に頼ってばかりは嫌(B) 自分の好きなこと(仕事)はやっぱり譲れない(B) 自分の趣味を楽しみたい(C) 親の姿を見て考えた(C) 一生働きたいという職場を求めている(A) 家庭以外の場所で自分が自分でいられる場所が欲しい(E)
専業主婦	家の中だけでは世界が狭いし窮屈(A) 憧れるけど現実的には厳しい(A) 専業主婦になるのは考えてない(B) 家事は好きだが、家の中に閉じこもっているより外の世界に行きたい(B)
お金	旦那さんの収入とは別に10万から15万は欲しい(B) 体を使って働きたいというよりは、『お金』(B) 安心感が欲しい(B) お金の余裕がないと困るんじゃないか(B) 自分の生活費の分は、自分で稼いでおきたい(B) 専業主婦が楽だとは思いますが、お金のために稼いでおきたい(B)

上記の表から、再就職を選んだ者たちの子どものカテゴリーでは、結婚し子どもを産んだら、ある程度大きくなるまで子育てを優先したいという意見が多いことがわかった。幼少期には母親は必要であるという考えがあり、子どもがある程度成長したら再び働き始めたいと思う者が多かった。中には、自分が働く際には子どもに自分が仕事を再開することを伝えた上で、仕事を始めるという者もいた。次に、仕事のカテゴリーでは、専業主婦には収まらず働きたいと考える者が多かった。主婦も理想であるが家事や子育てだけではなく、外でも働きたいという気持ちが強かった。働きたいと思う反面、働かなければいけないという義務感をもっている者もいた。働く場合の雇用は正社員が良いという者もいたが、パートでも良いという者もいた。再就職でも正社員になれる制度があれば正社員として働きたいが、ない場合はパートとしてでも良いという意見があり、必ず正社員が良いという意見はなかった。再び仕事をする場合、元々働いていた職場が産休や育休が充実しているならば、退職はせず育休や産休の制度を生かして、元の職場で働きたいという意見もあった。想いのカテゴリーでは、それぞれ違った意見があり、相手に頼って生活するのは嫌だという者もいれば、家庭以外の場所で自分の居場所がほしいため再就職するという意見もあった。また、親が再就職をしていたことで、自分も再就職しようと考えている者もいた。根拠は人それぞれ異なっているが、働きたいという意志が強いことがわかる。専業主婦のカテゴリーでは、現実的に専

業主婦は厳しく、家という狭い世界より外の広い世界に行きたいと思う人が多く、憧れはあるが専業主婦になるという考えの者はいなかった。お金のカテゴリーは、金銭面での余裕がほしいことから稼いでおきたいと思う者が多かった。

表3. 専業主婦を選択した者の回答例

カテゴリー	回答例
子供	子供は1から2人欲しい(G) 兄弟が欲しい(G)
仕事	自分は稼ぎたくない(H) 貧しいと感じるまで働かない(G) 最低二年は正社員を続ける(G) 結婚までは正社員(G) 昇進は希望しない(G)
想い	地元を離れたくない(H) 愛情はあまりいらない(H) 子育て終了後のんびりしたい(G) 仕事と育児を両立できない(G) 旦那に子育てを強制しない(G) 子供が成長したら趣味をやりたい(H)
専業主婦	家から出たくない(H)
お金	趣味に使うお金は夫のもの(H) 普通に生活できる程度の収入(G) 子供が多いと経済面が不安(G)
結婚	お金持ちとの結婚(H) 出会いにこだわりのない(H) お金持ちでなければ独り身でもいい(H) 高収入より価値観の合う人がいい(G)

上記の表より、専業主婦を選んだ者は子供に関する考えは①と同様であり、想いのカテゴリーでも子育てを中心とした生活を望んでいることが分かった。なお、子育て終了後は自分の趣味がやりたいと考えている。お金に関しては、自分が働かなくても金銭面で金に困らない生活ができればいいと考えており、特別贅沢な暮らしがしたいわけではないが、趣味に使うお金は夫のものを使うと考えていることや、結婚のカテゴリーにおいてお金持ちとの結婚を望んでいることが分かった。これは、仕事や育児などの両立が難しいと考えていることや、家から出ることに対する抵抗があるといった考えが理由であると考えられた。つまり、働きたくないという想いが結果に結びつく傾向がある。しかし、それぞれの配偶者に求める条件には差が見られた。

考察

本調査では、「DINKS」と、「非婚就業」の項目については選択した者がおらず、少ない協力者の中ではあるが女子大学生のうちほとんどの者が結婚、出産を視野に入れているこ

とがわかった。

このうち、両立と再就職を選択したものは、経済的な面を重視し、余裕のある生活を望んでいる傾向にある。よって、仕事をする事自体への執着はあまりないものの、生活に関する金銭を稼ぐための手段として両立や再就職を選択しているものと考えられた。なお、専業主婦を選択したものにおいては、結婚相手について、ある程度の収入がある者を選択しようとする傾向にあり、生活するにあたって一定額以上の収入を重視するべきであるという考えは多くのものが抱いていることということが考えられた。

また、専業主婦を選択したものは、家庭内に限らず、自分自身の趣味についても夫に負担してもらおうことを考えていた一方、両立や再就職のものは、趣味など自らに関わる費用については自身の収入の範囲内で楽しみたいと考えていることがわかった。

ライフコースとしては、多くのものが結婚、出産を望んでいるということや、それぞれのライフプランニングにおいて、金銭面をより重視している傾向にあることがわかった。

「DINKS」や「非婚就業」を選択したものがいなかったことや、また、「両立」や「再就職」を選択したもののうち、金銭的な面を懸念していたことから仕事をする事を選択していたことなどから、女性が男性と同じように働く環境について叫ばれている昨今ではあるが、働く事自体に魅力を感じている女性は少ないように感じた。

これからの女性の社会進出について考えるにあたり、女性の理想とするライフコースにおいて手段として仕事を選択するのではなく、自らの興味ややりがいなど、仕事そのものを魅力に感じて仕事を選択できる環境になった時、DINKS や非婚就業を選択する者も増え、女性の考える理想のライフコースがより多角化するのではないかと考察された。